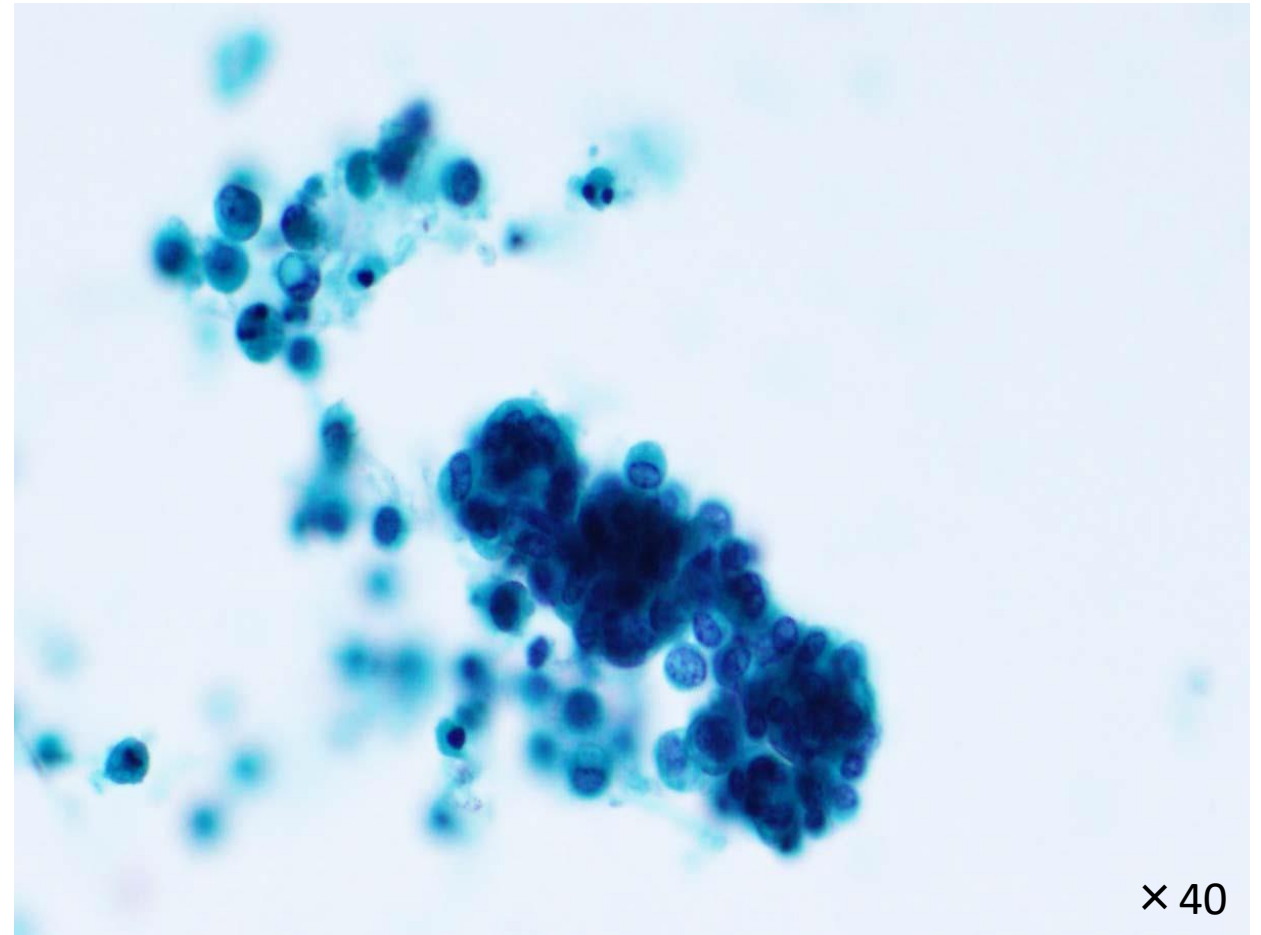
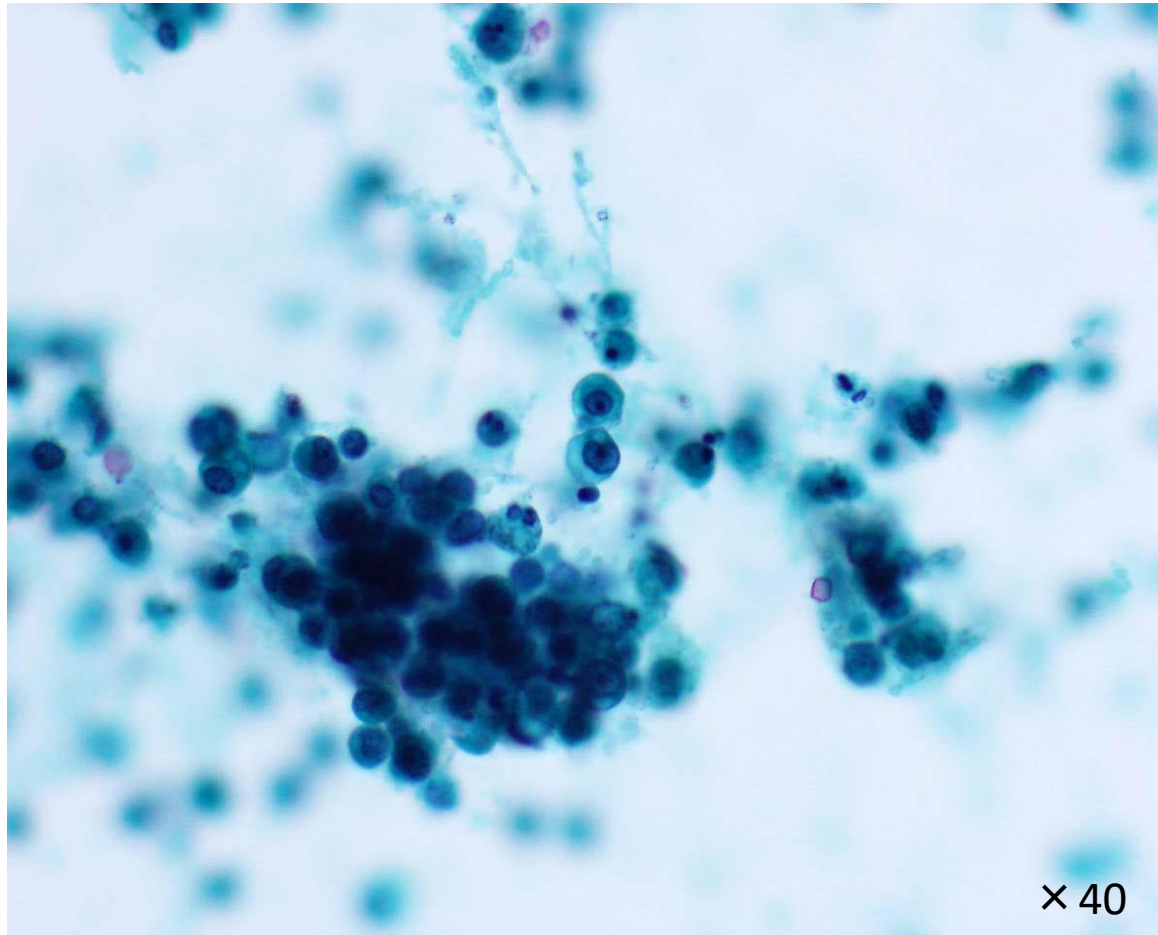
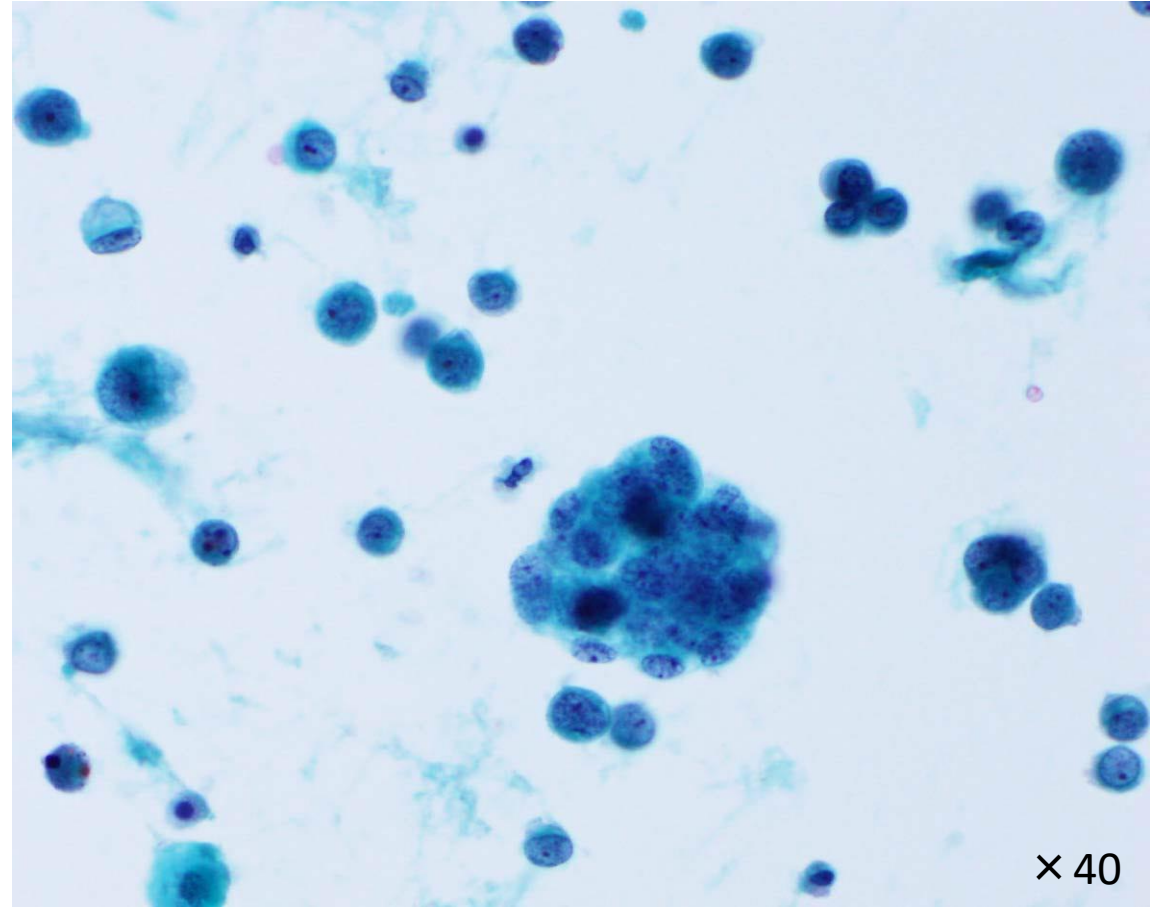
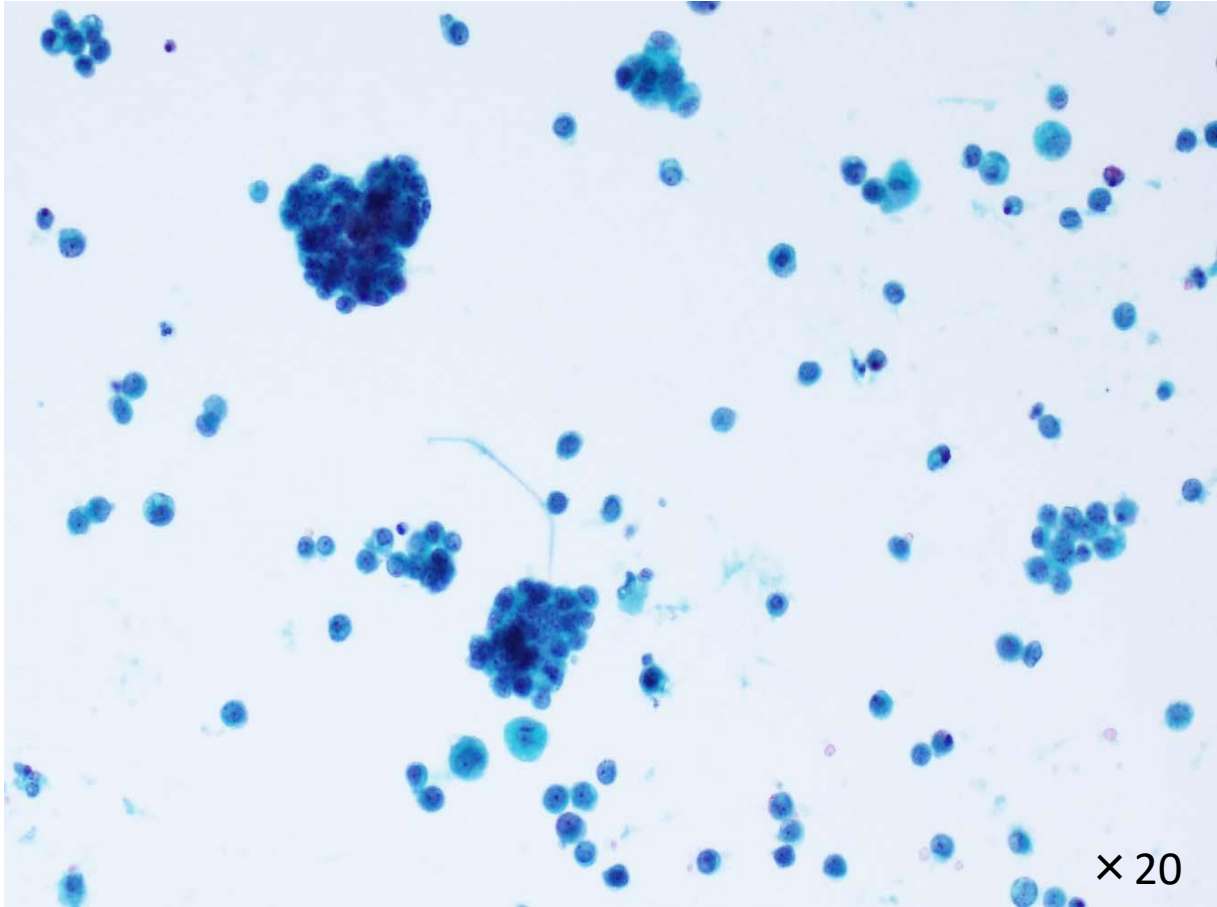


オートスメア標本



LBC (Cell prep)



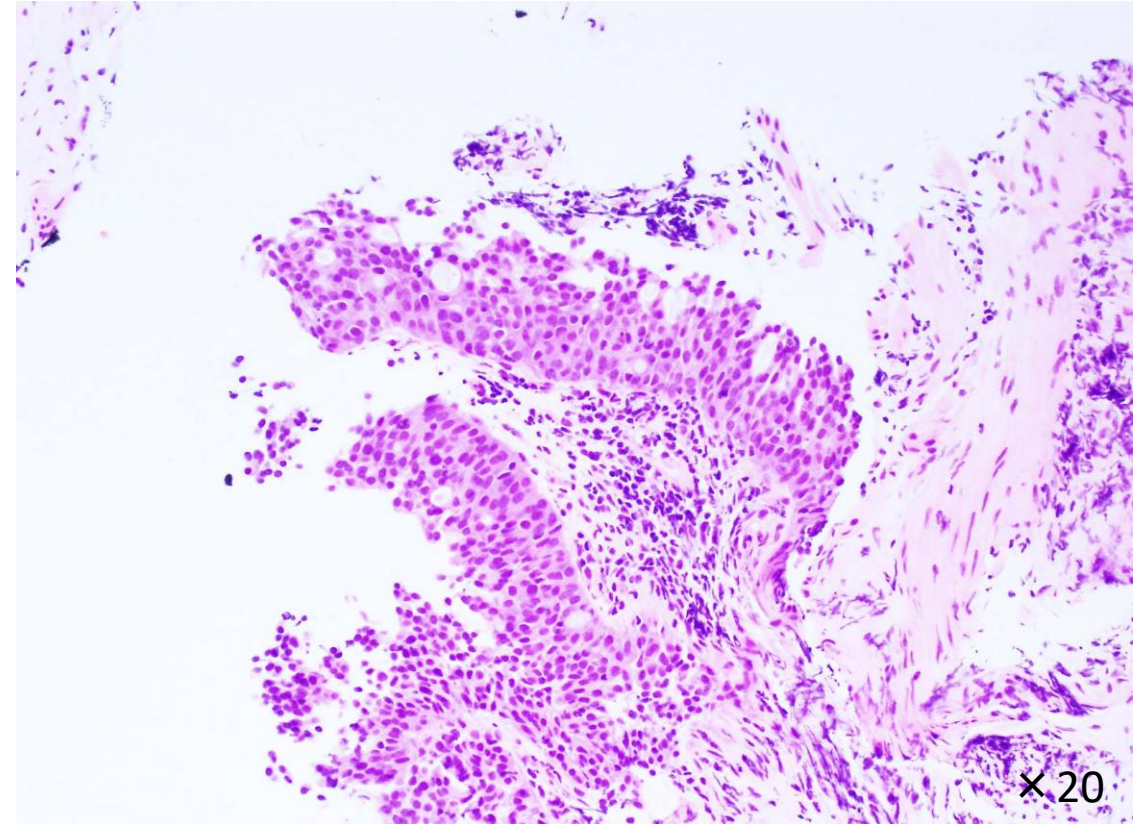
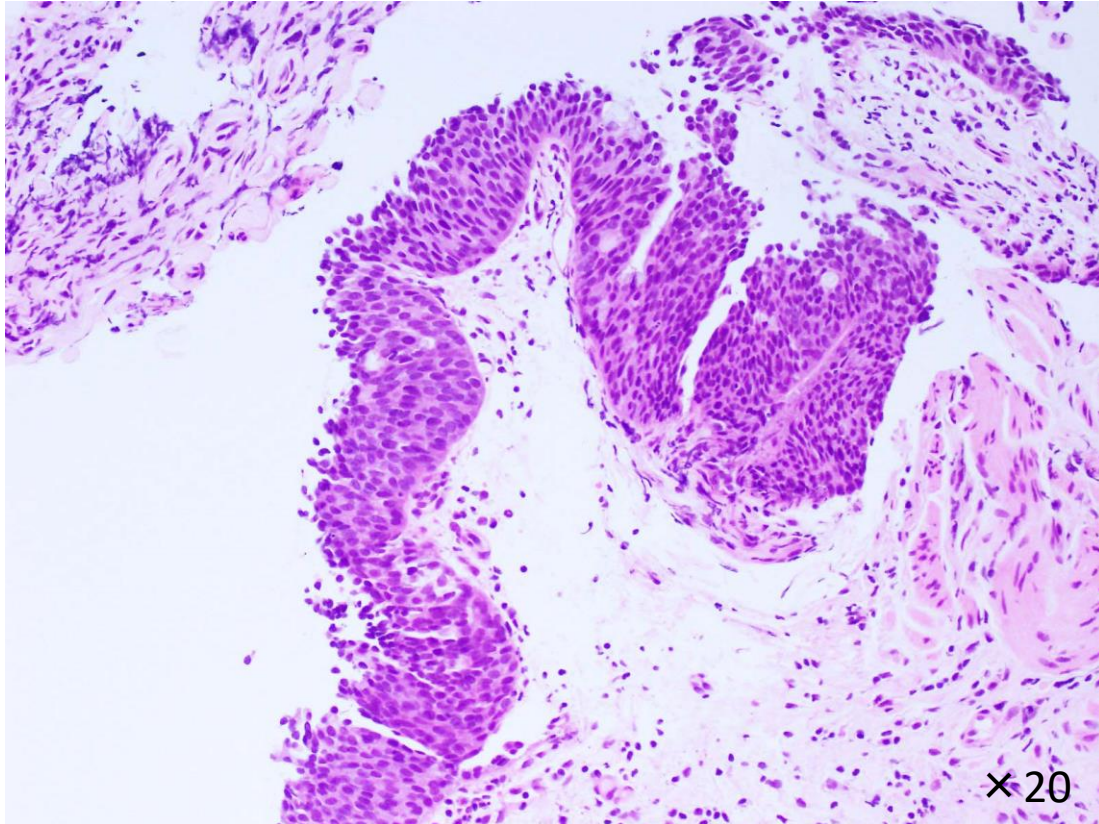
【判定】

- 壊死性背景
- 小型異型細胞の散在性、乳頭状集塊の出現
- 核偏在傾向の小型細胞の出現
- LBC標本での細微な核クロマチン増量と細胞質の形態
(一部に粘液を含有)

※ LBC:Cell prep (Roche) 標本

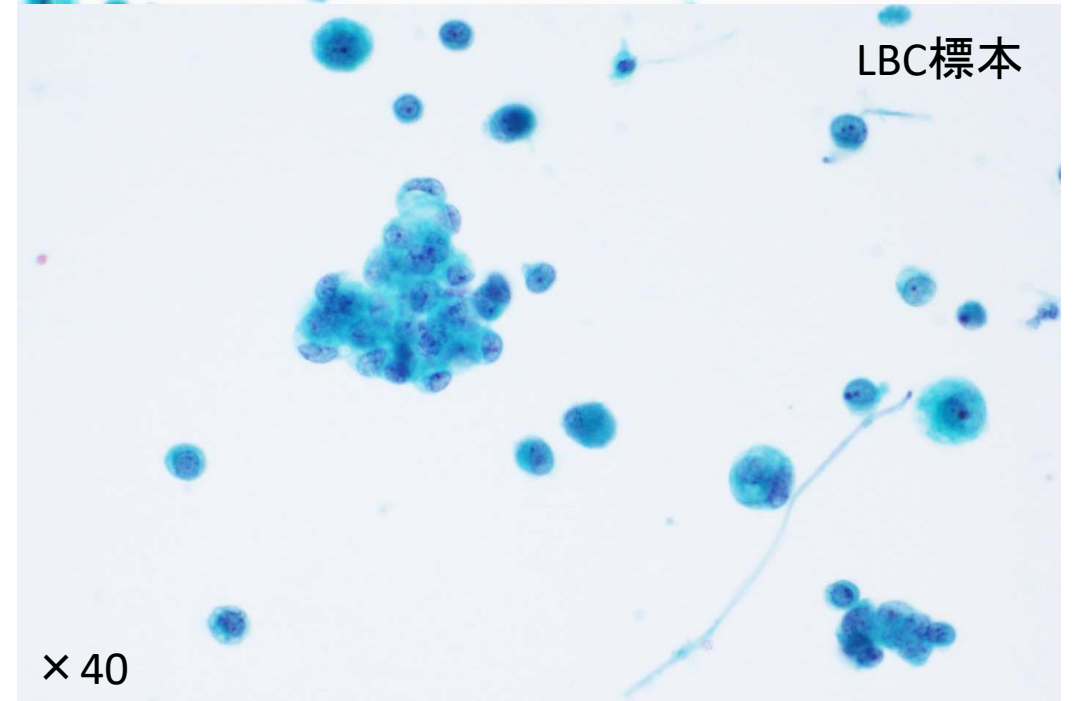
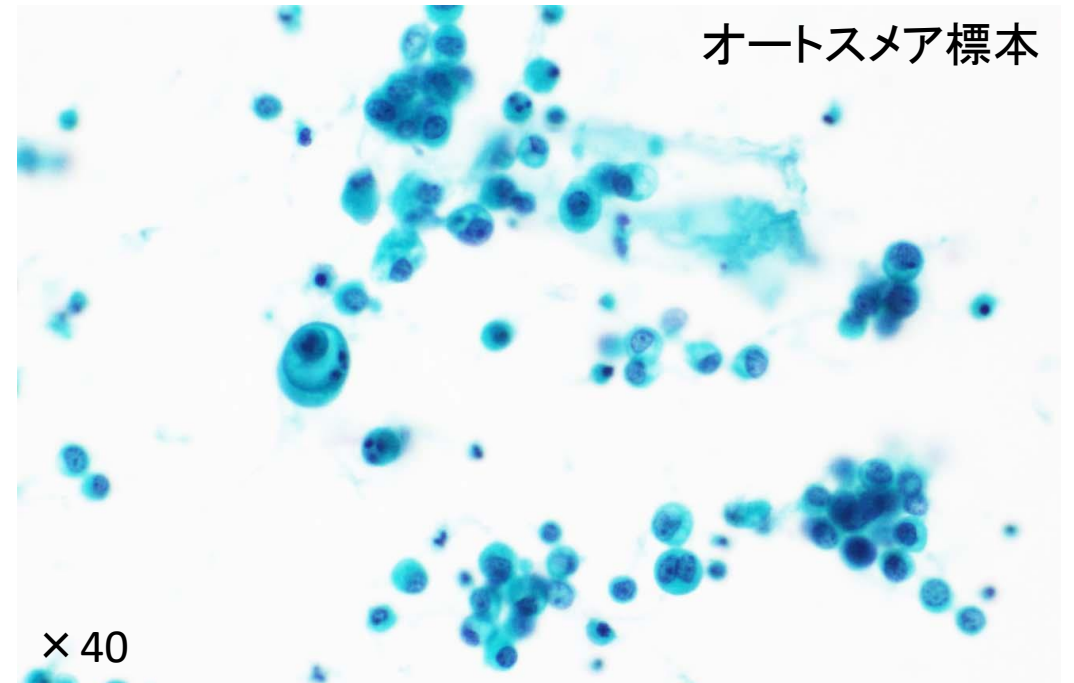
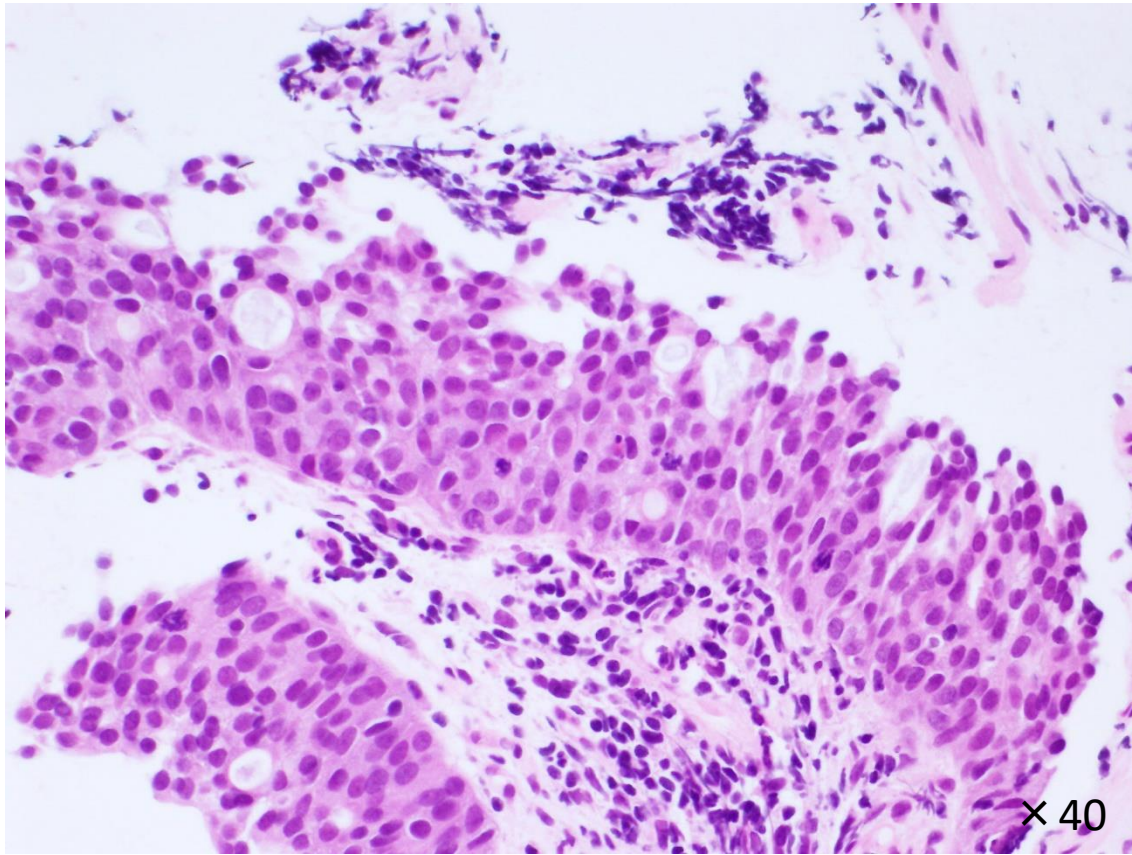
⇒ **Adenocarcinomaを疑う所見**
(尿路系以外の可能性も否定できない)

組織所見(尿管生検)



【診断】 Urothelial carcinoma with glandular differentiation
腺上皮への分化を伴う尿路上皮癌

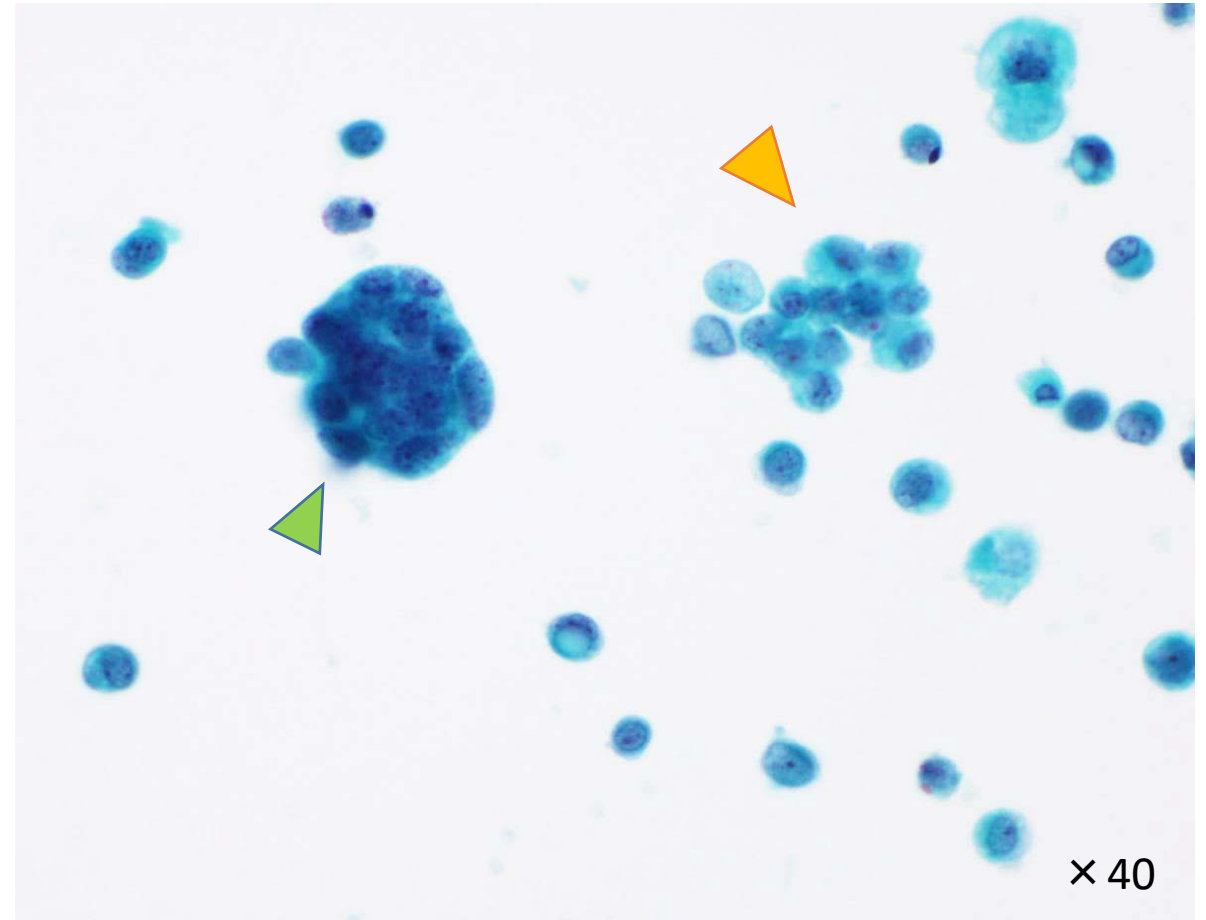
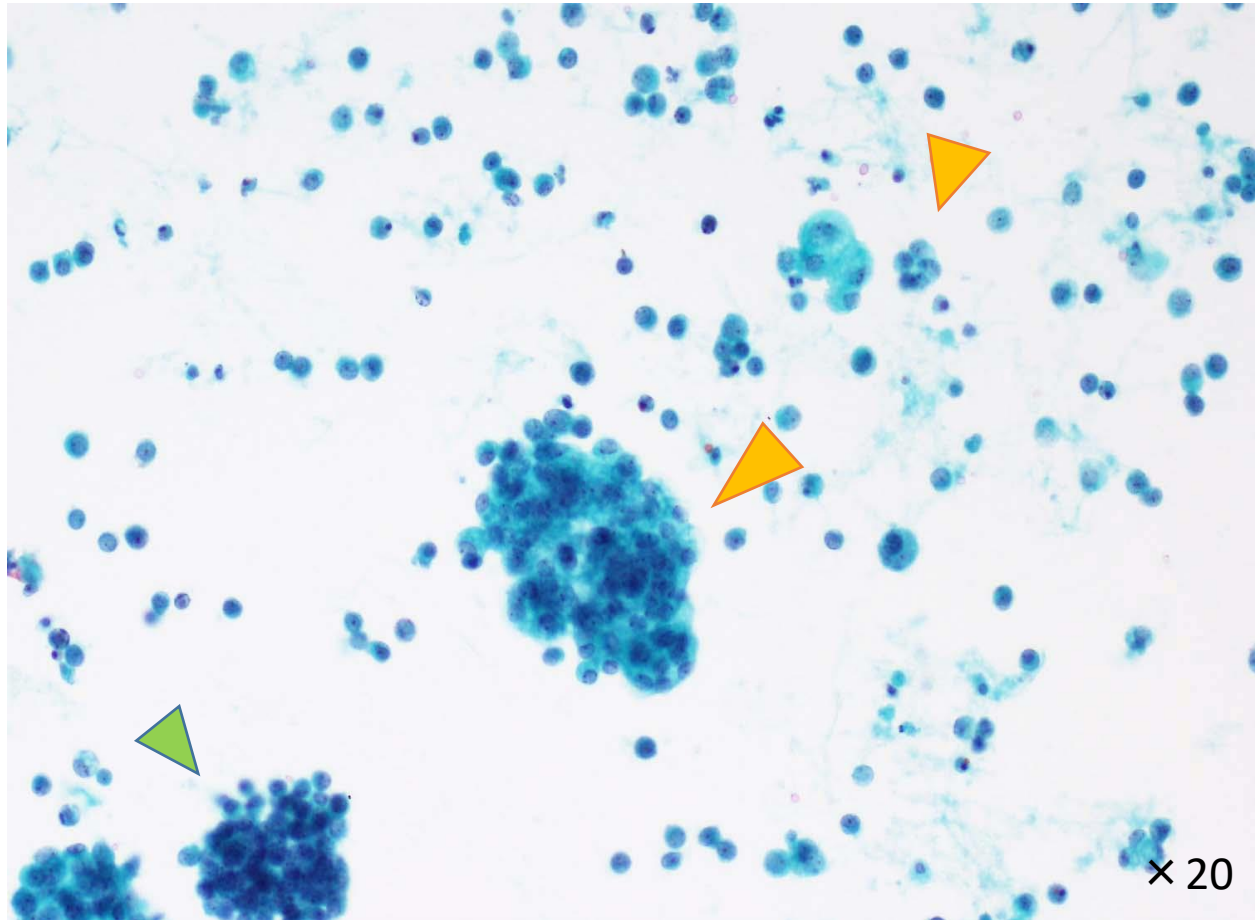
N/Cの高い小型異型細胞で、粘液含有や腺腔形成をみとめる非浸潤性の尿路上皮癌



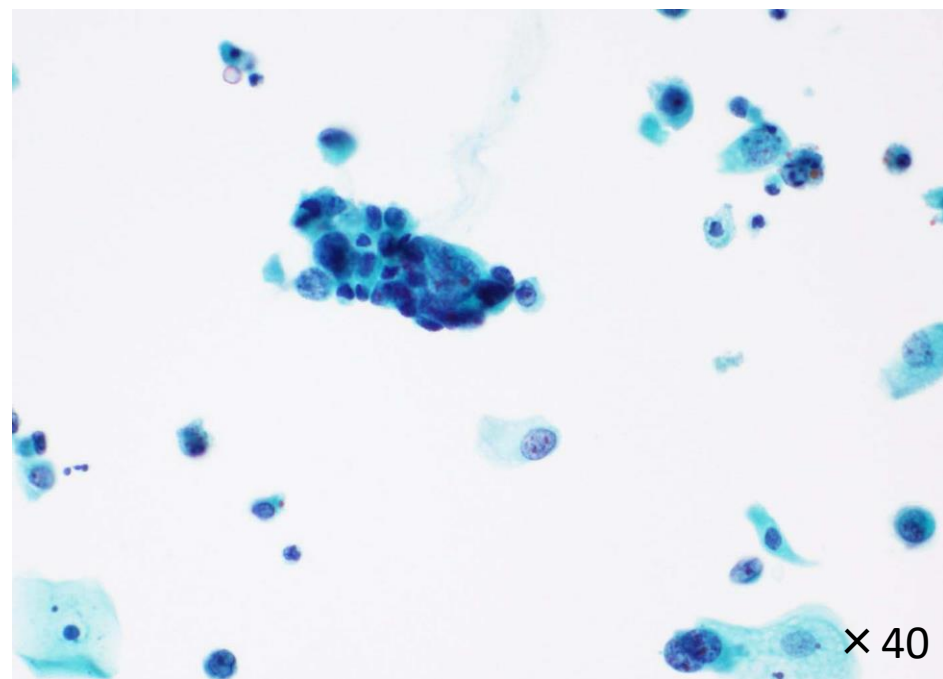
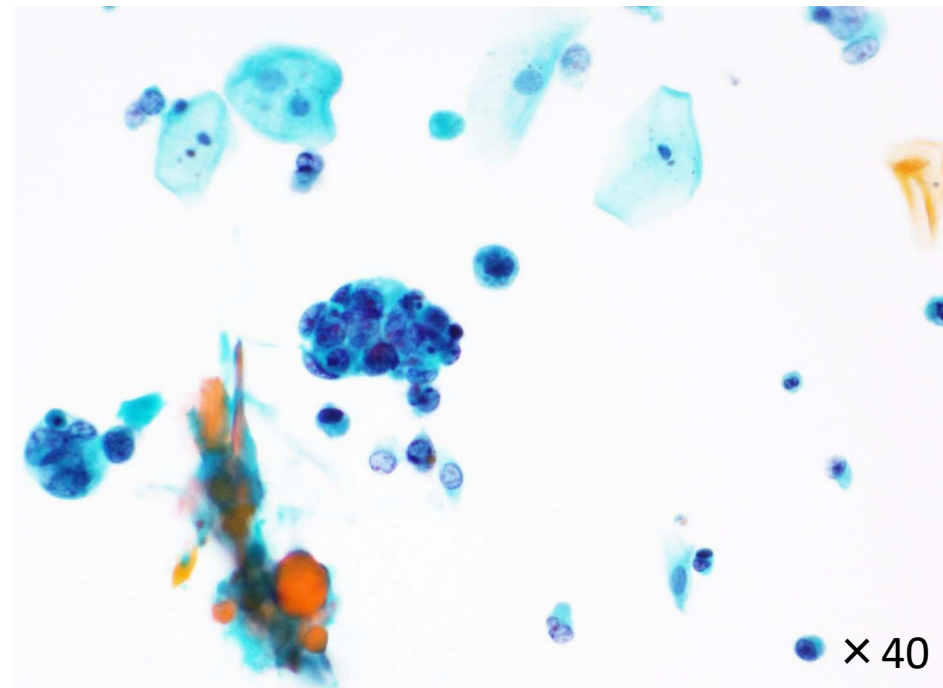
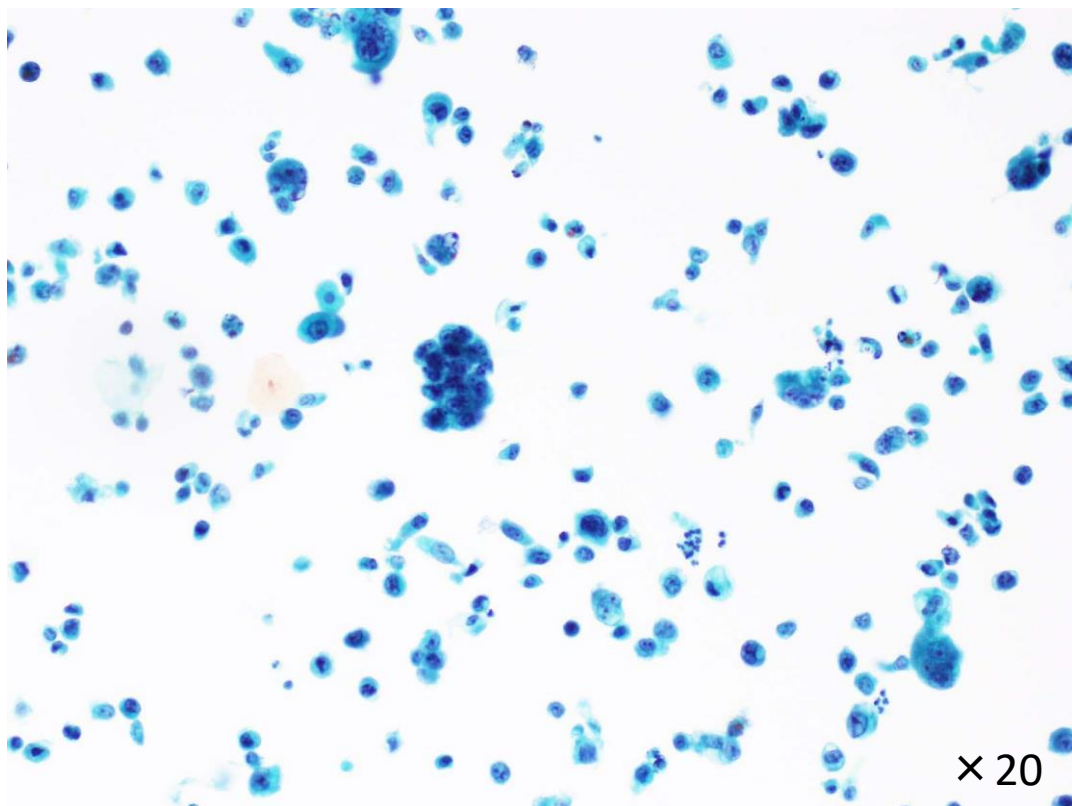
- 小型異型細胞の乳頭状集塊で観察される
- 腺腔配列は目立たない
- 核偏在した細胞で、淡く粘液様の細胞質をみとめる

全体的に細胞異型が弱い

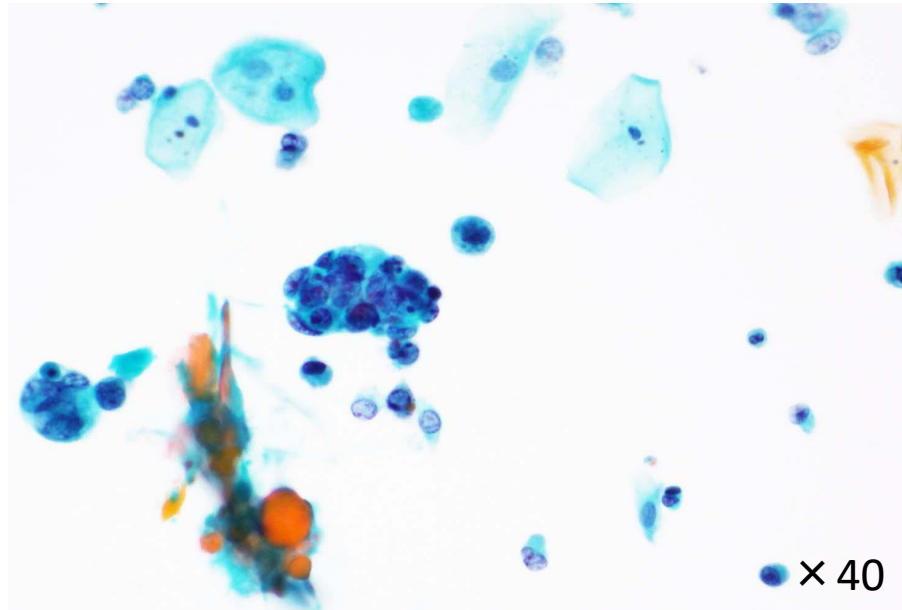
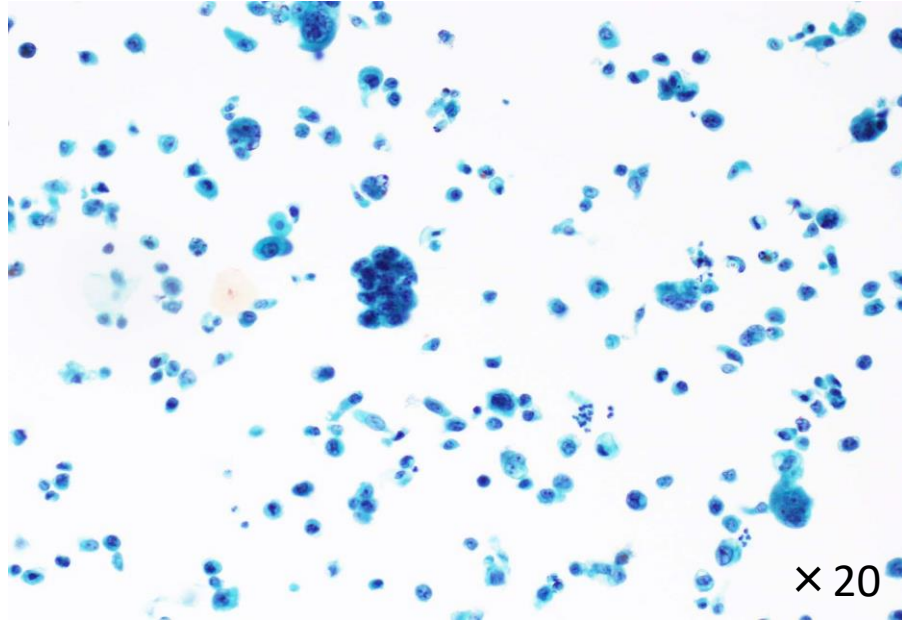
腺上皮への分化を伴う尿路上皮癌(LBC)



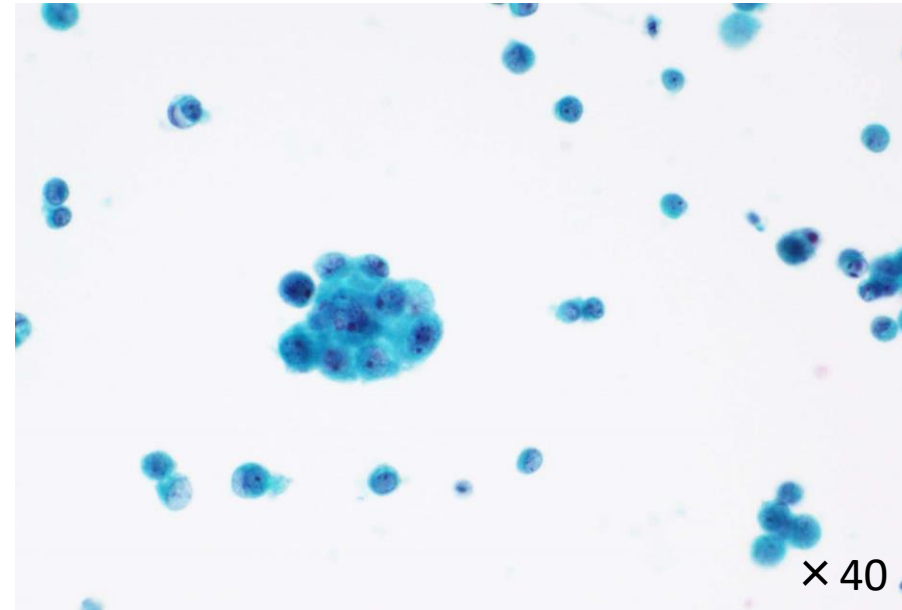
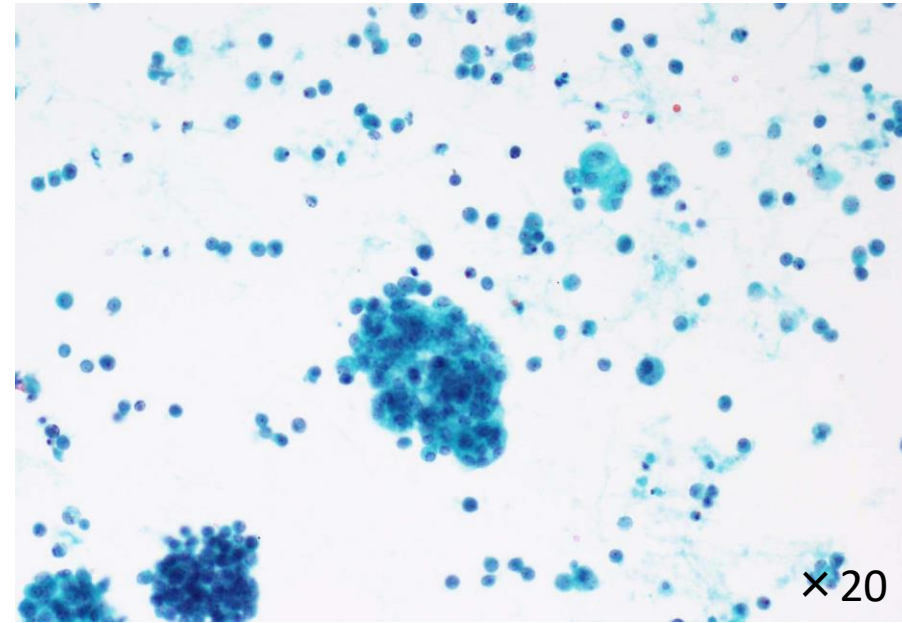
高異型度尿路上皮癌(LBC)



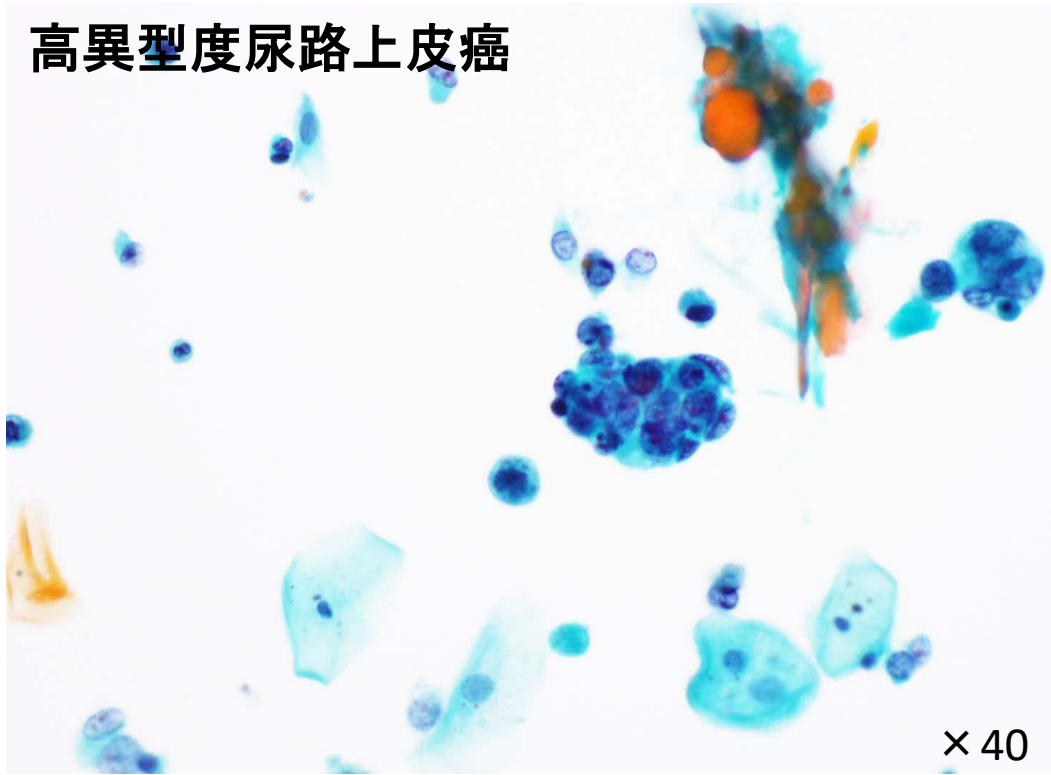
高異型度尿路上皮癌(LBC)



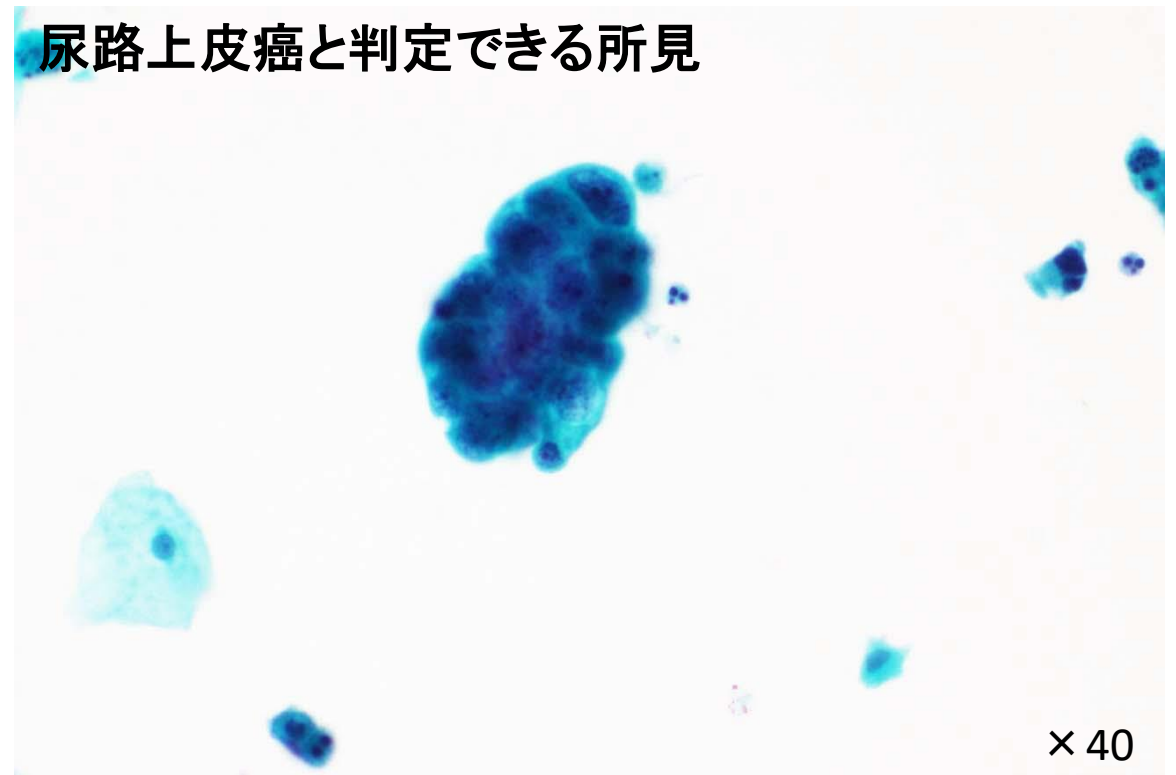
腺上皮への分化を伴う尿路上皮癌(LBC)



高異型度尿路上皮癌



尿路上皮癌と判定できる所見



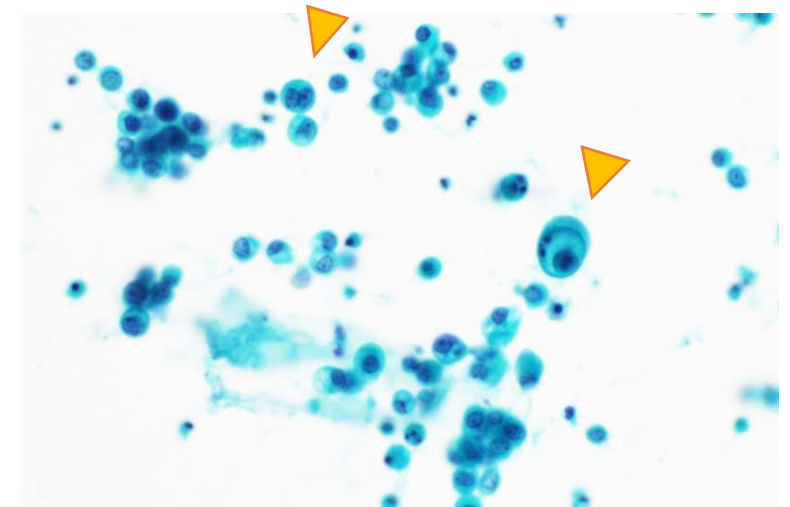
高異型度尿路上皮癌と本症例との比較

- ・ 細胞異型が弱く、細～粗な核クロマチンが増量
- ・ 大型細胞の出現が目立たない

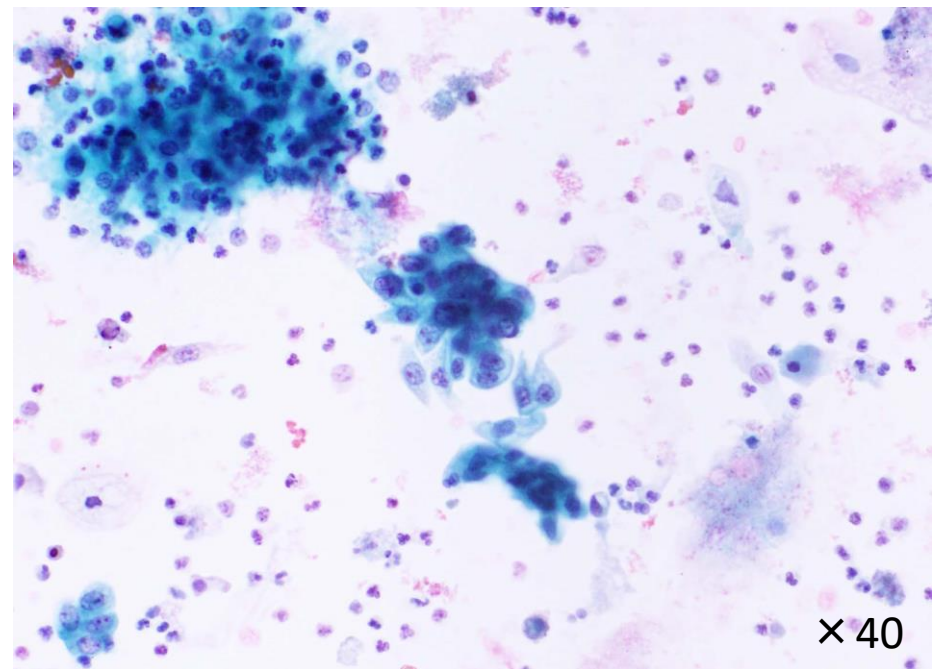
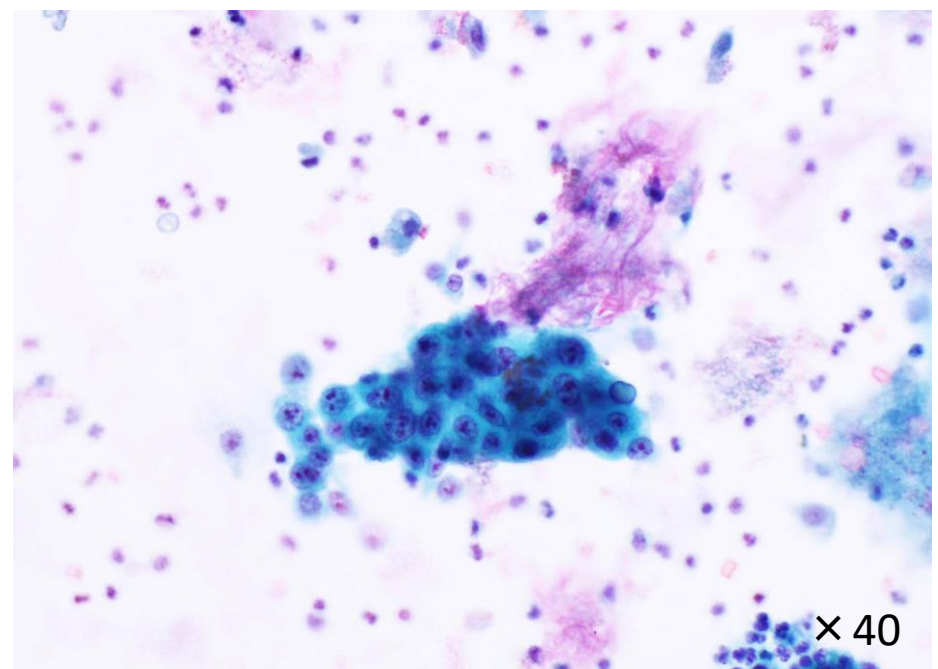
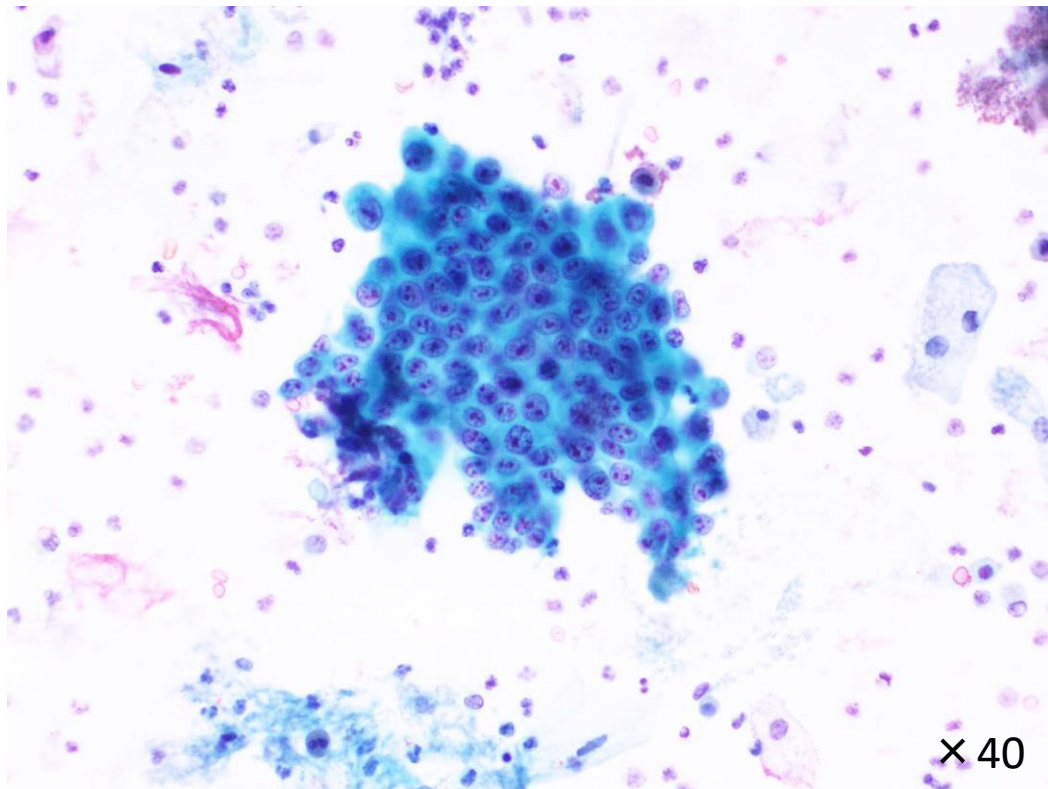
しかし..

相互封入像や二核細胞等が混在している

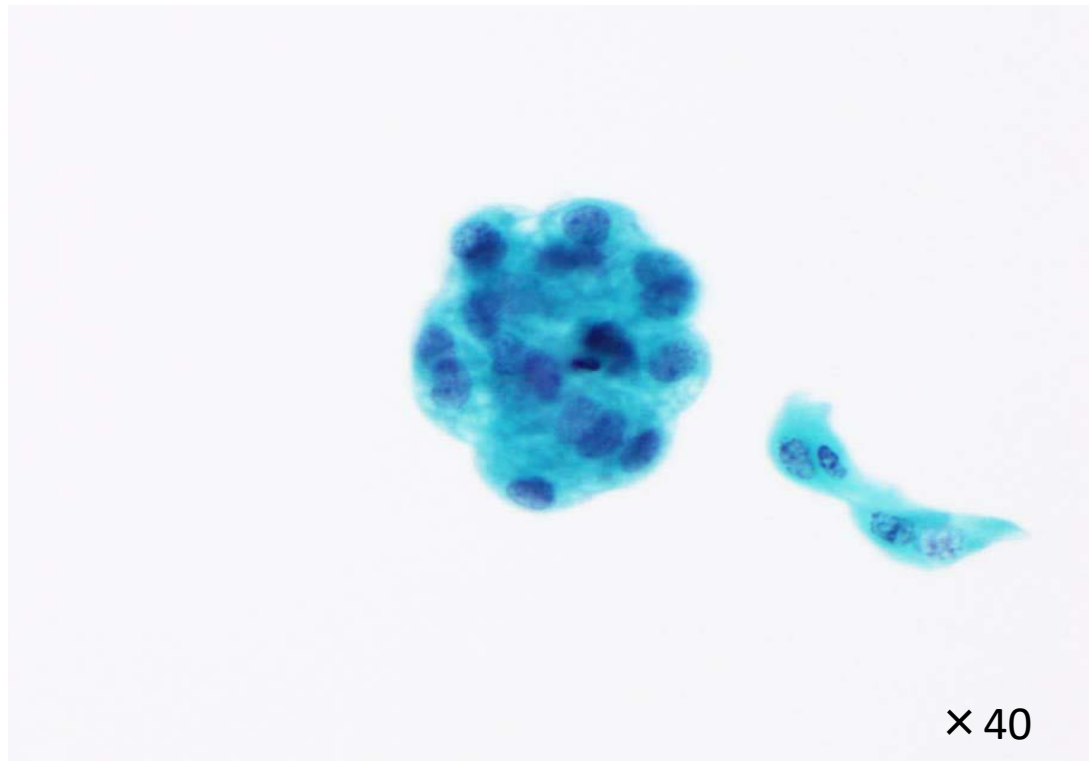
→ 尿路上皮癌の所見



大腸癌の浸潤(LBC)



膵臓癌の膀胱転移(LBC) (CA19-9陽性)



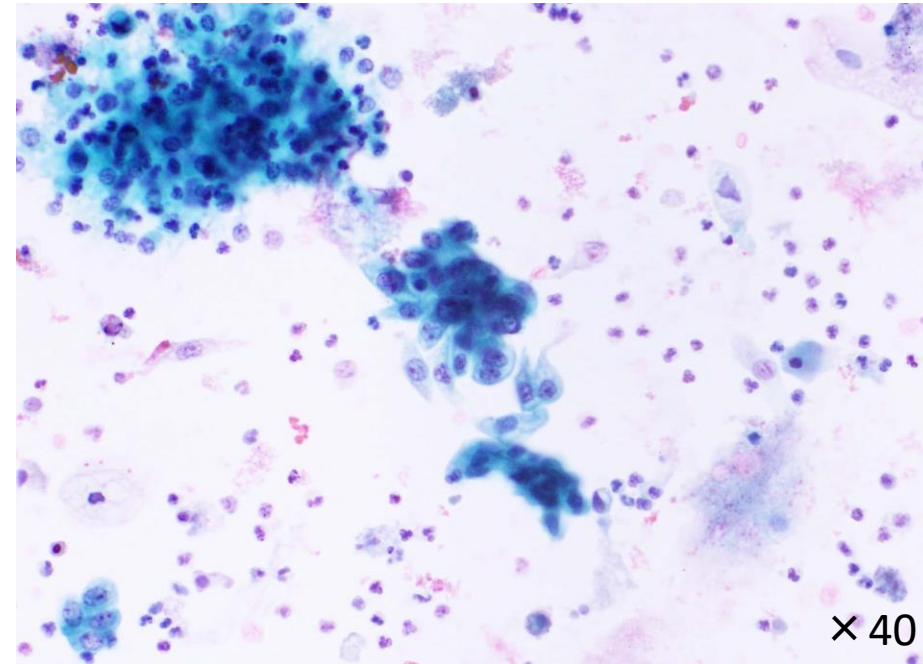
転移性・浸潤性腺癌との比較(LBC標本)

膵臓癌転移



- ・ 小型類円形の異型細胞からなる乳頭状の小集塊の出現
- ・ 腺管様の集塊や腺腔配列がみられる
- ・ 膵液や膵管擦過の細胞所見が比較的反映されている
- ・ 粘液含有の細胞質

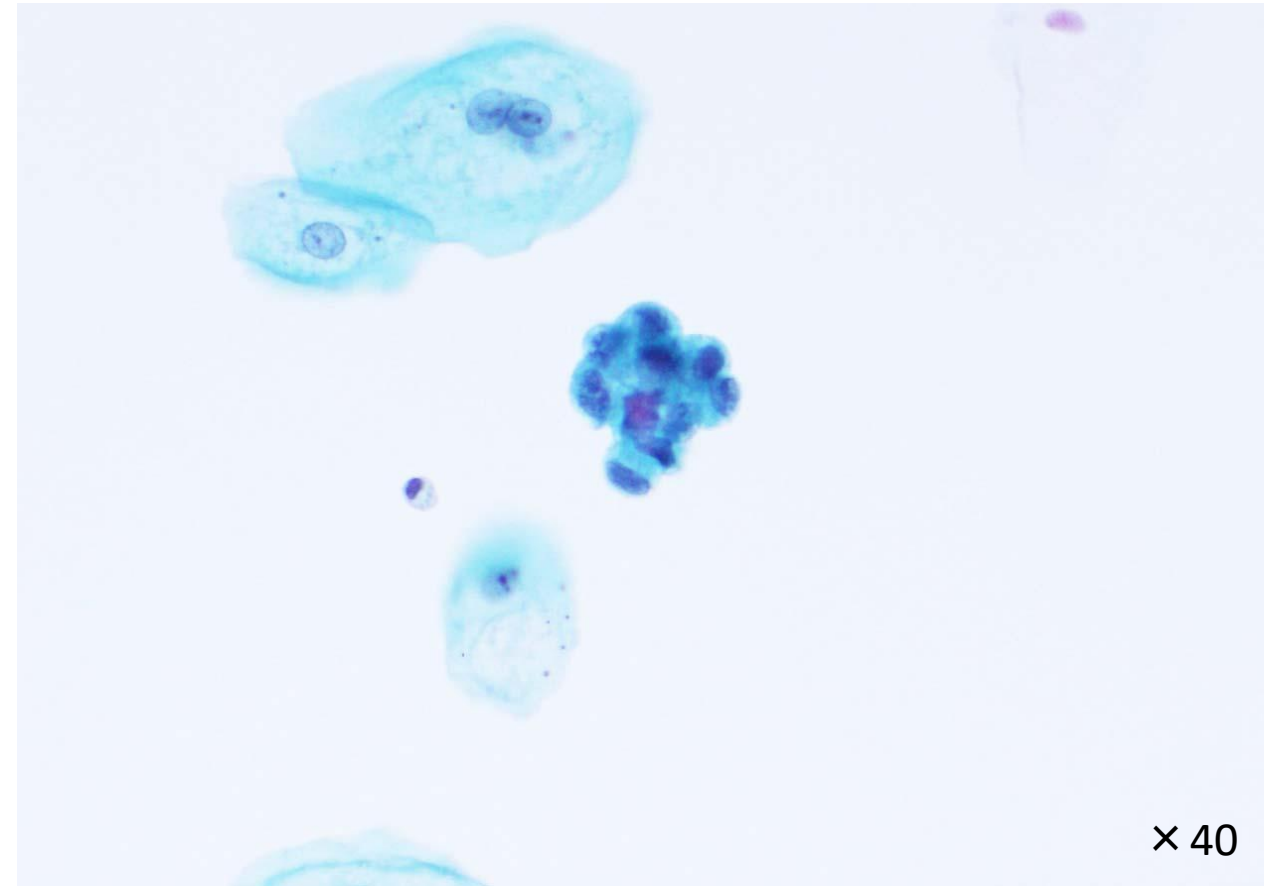
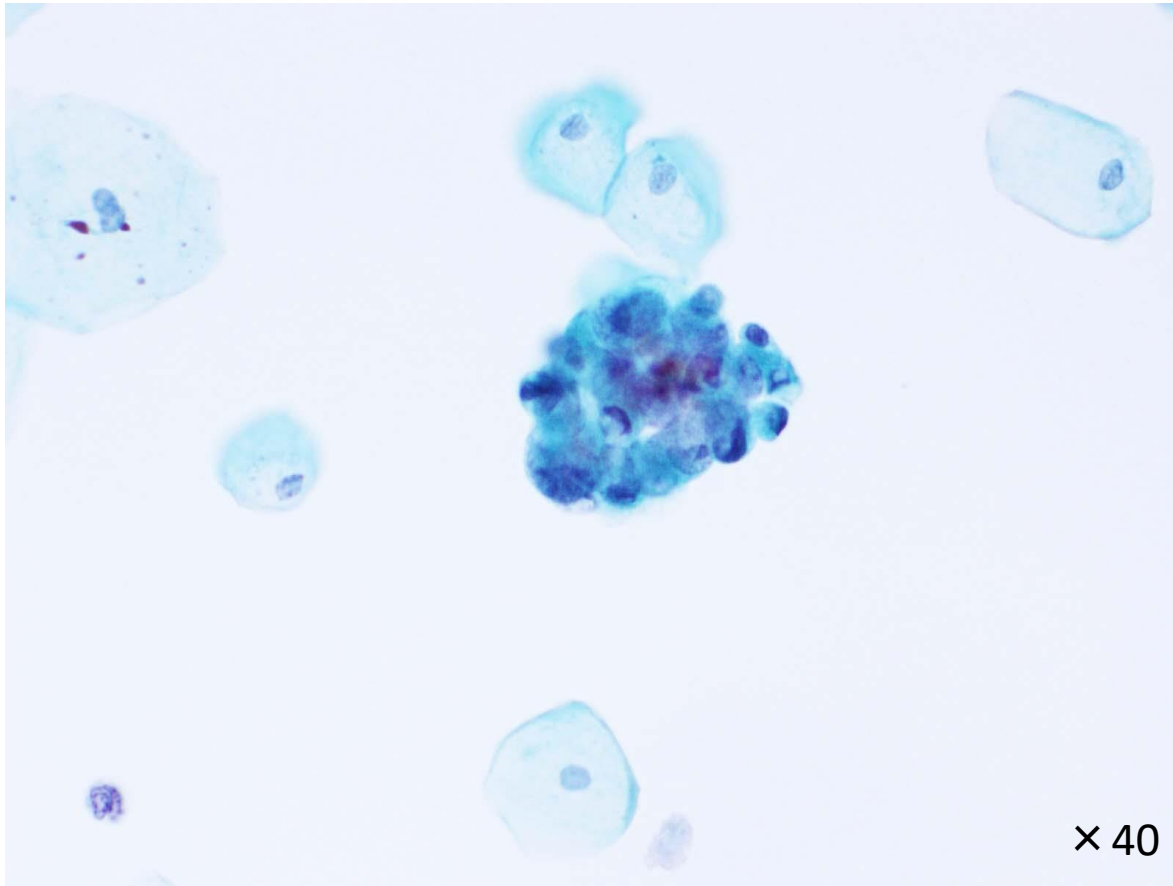
大腸癌の浸潤



- ・ 高度炎症・壊死性背景
- ・ 円柱状の異型細胞でやや大きい
- ・ 核異型は強く、不整な核小体や核クロマチン増量をみとめる
- ・ 柵状配列や腺腔配列がみられる

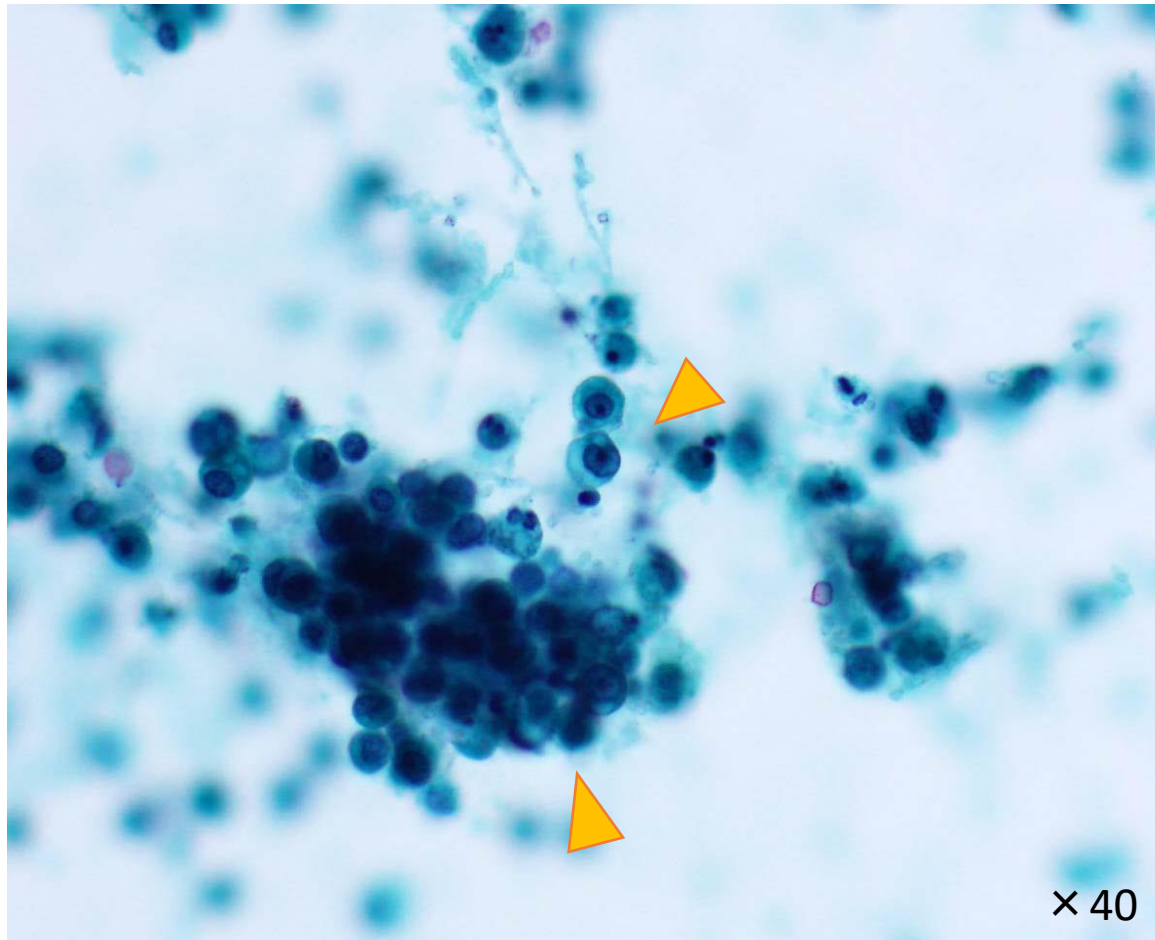
LBC標本のみでは鑑別は難しい

尿膜管癌(LBC)

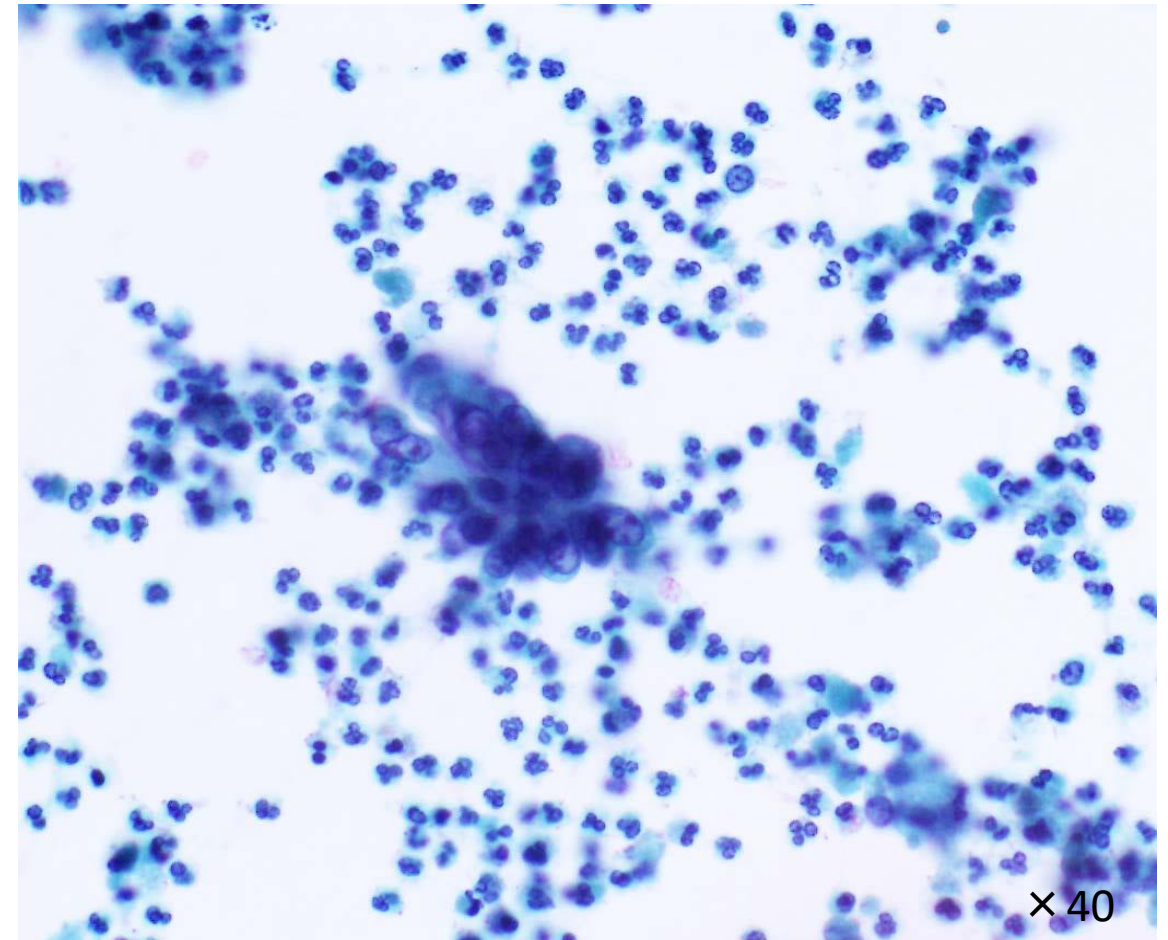


- 全体的に染色性が淡く、細胞境界が不明瞭となる
- 集塊の一部に粘液がみられる
- 背景はきれい(LBC処理による)

腺上皮への分化を示す尿路上皮癌



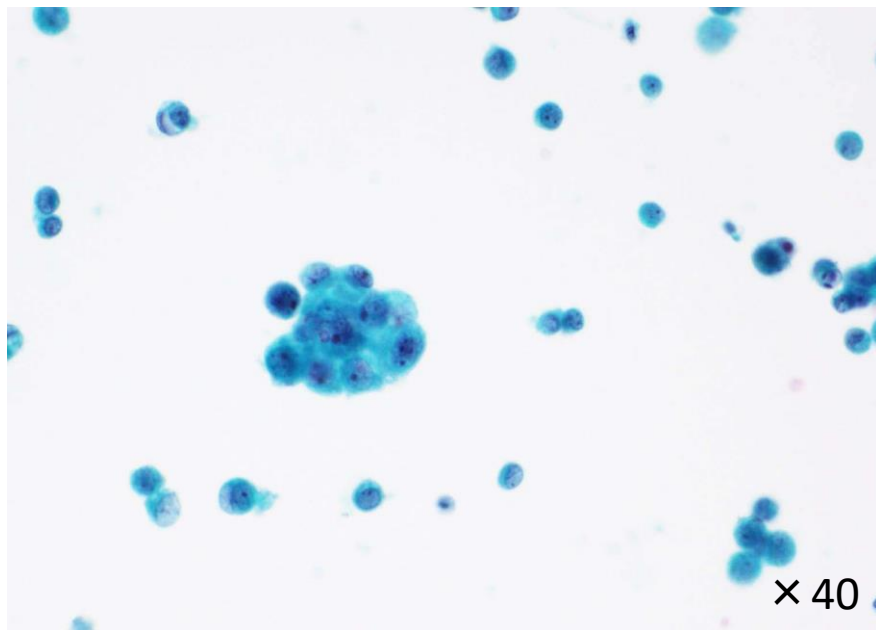
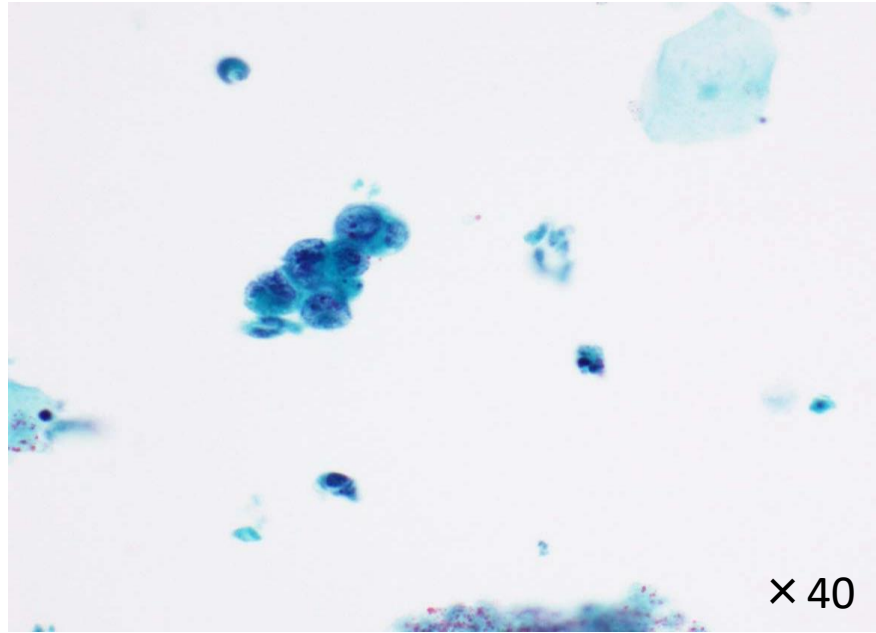
尿膜管癌



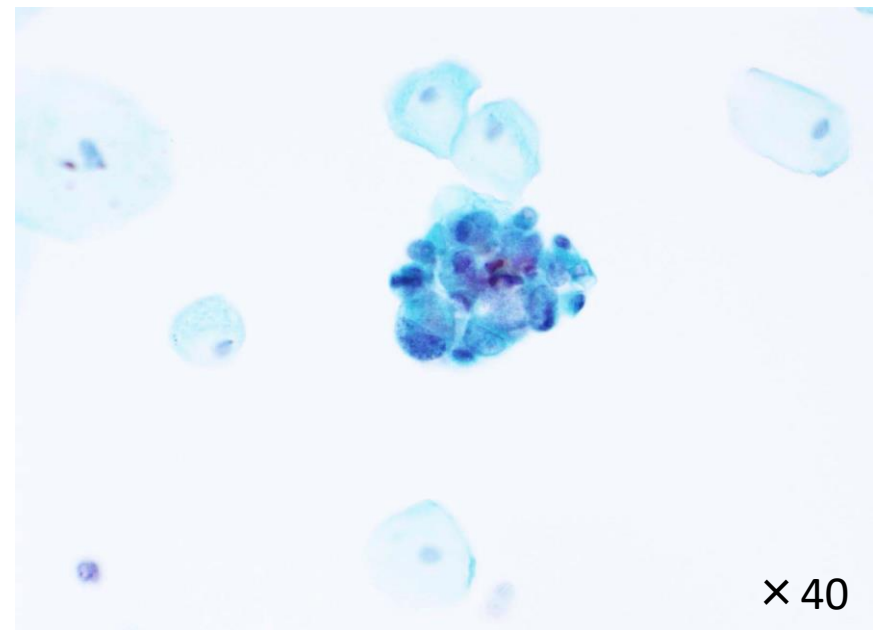
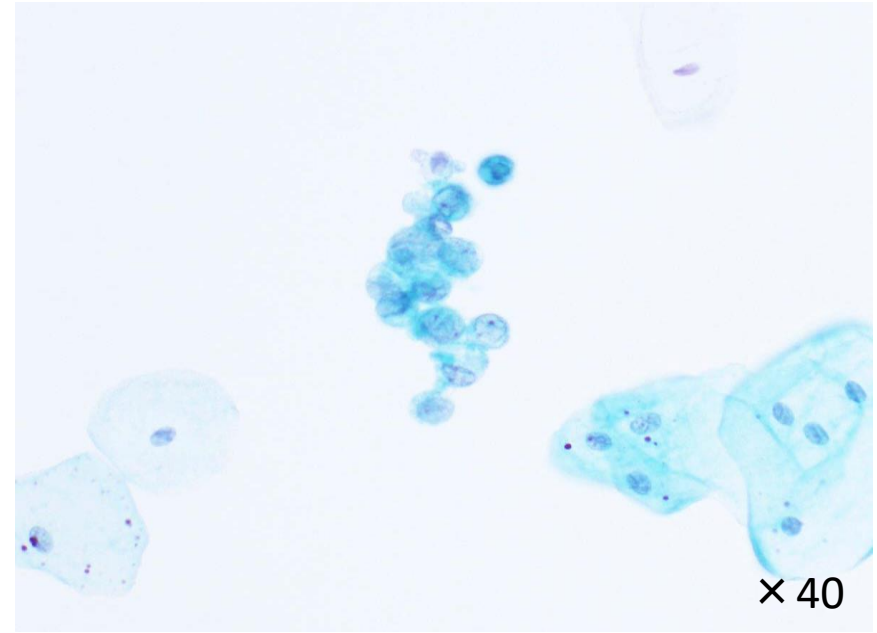
※ オートスメア標本

- 核小体の目立つ核偏在の異型細胞
- 立体的な集塊形成が観察できる

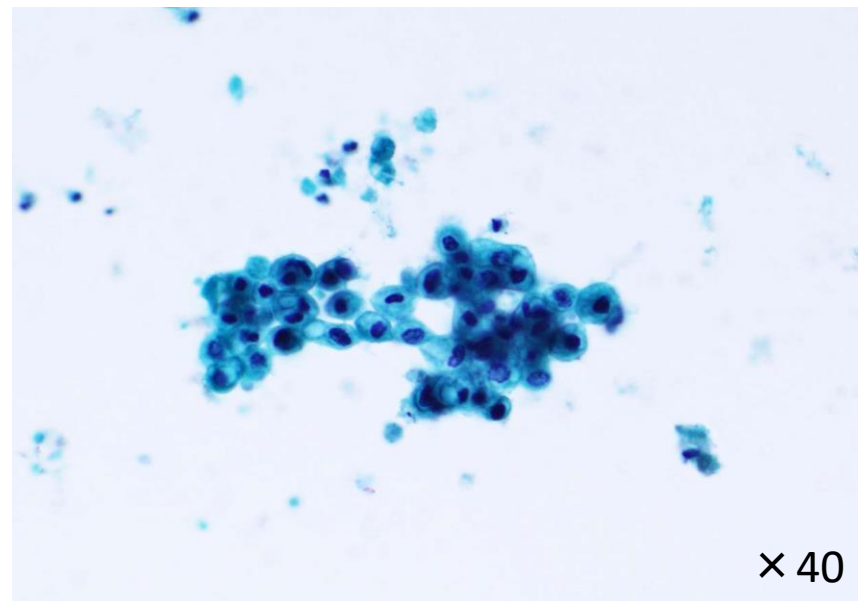
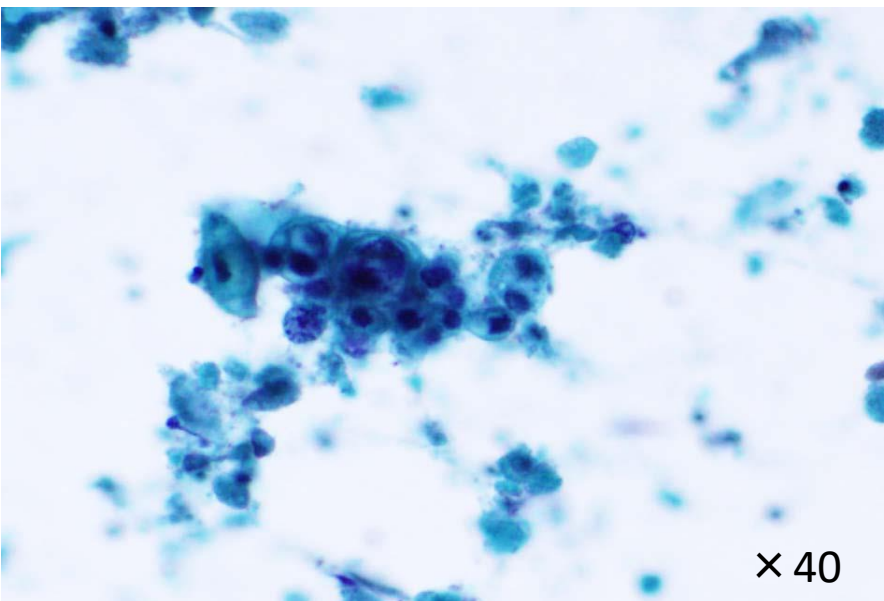
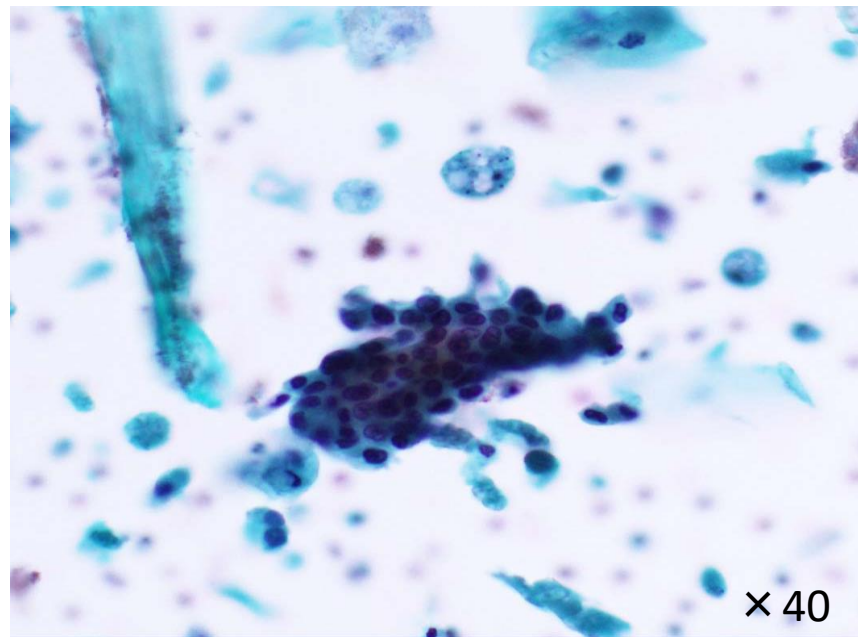
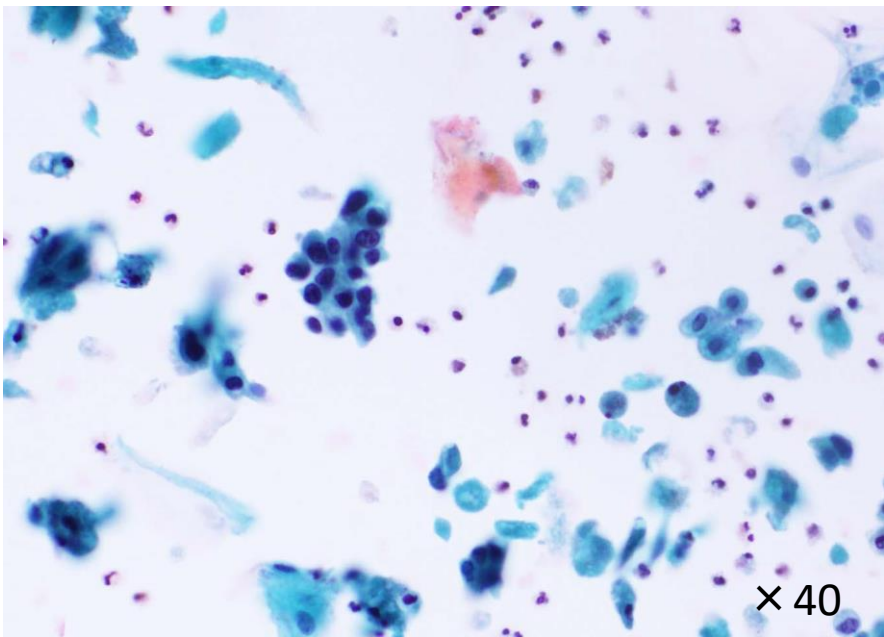
腺上皮への分化を示す尿路上皮癌(LBC)



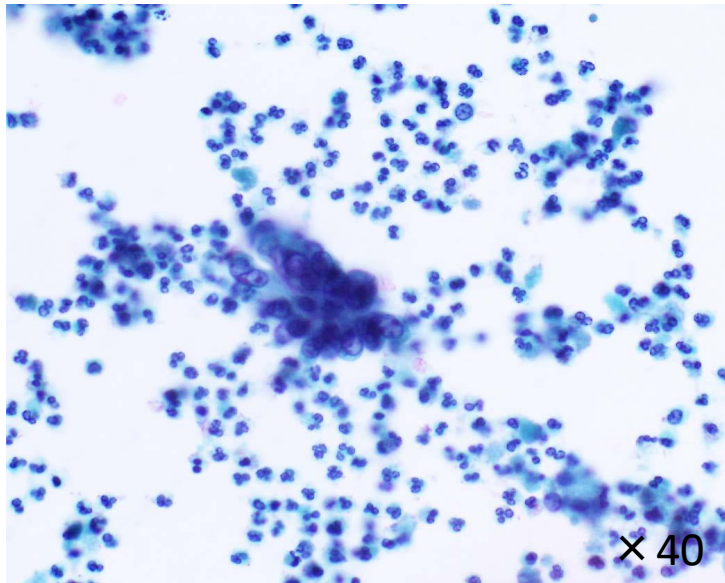
尿膜管癌(LBC)



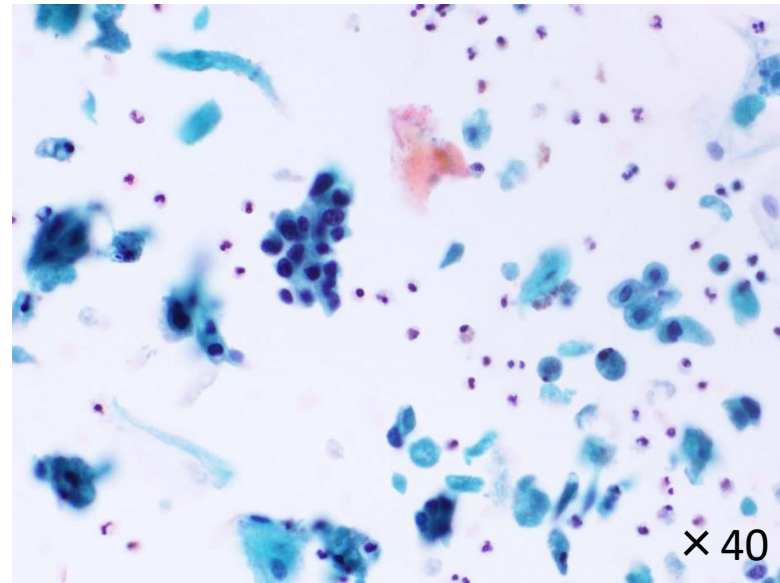
尿膜管癌 (LBC : Sure path 標本)



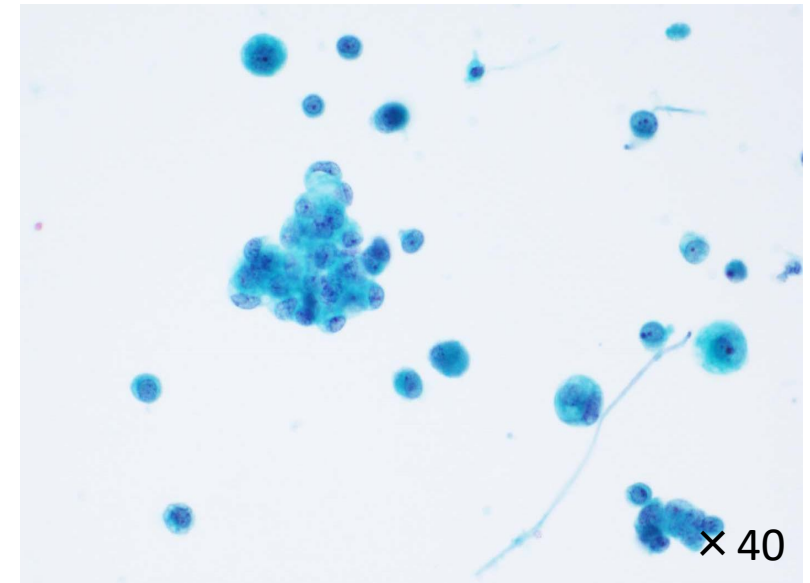
オートスマア標本



Sure path標本



Cell prep標本



各検体処理法での所見比較

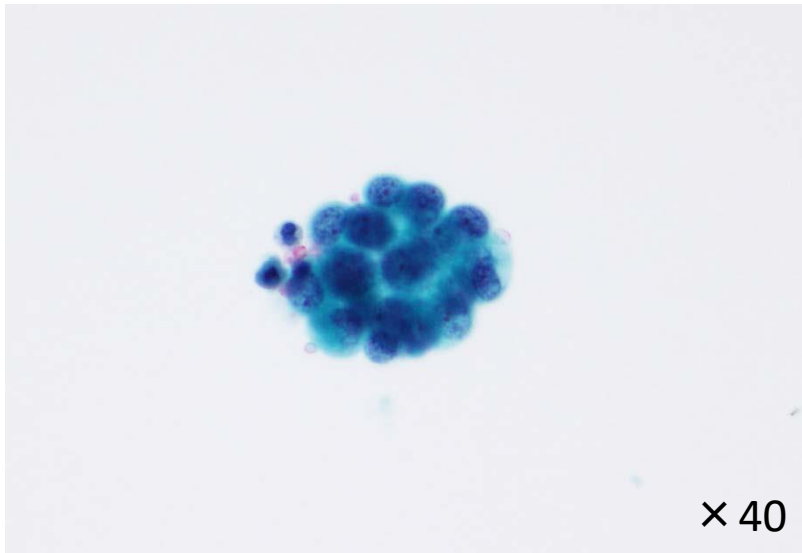
	オートスマア標本	Sure path標本(以前)	Cell prep標本(現在)
核	核内所見が明瞭	濃縮・濃染傾向	やや膨化傾向で不明瞭
細胞質	明瞭	小型縮小傾向・境界は明瞭	非薄で膨化傾向・境界が不明瞭
集塊	配列や立体構成は明瞭	重積が強調される	小型化・立体形成は明瞭
染色 (当施設)	その他従来法と同様		淡く、全体的に薄く染色される
背景	壊死・炎症の反映		壊死・炎症所見の減弱・集簇化

※ Cell prep標本は染色に注意が必要

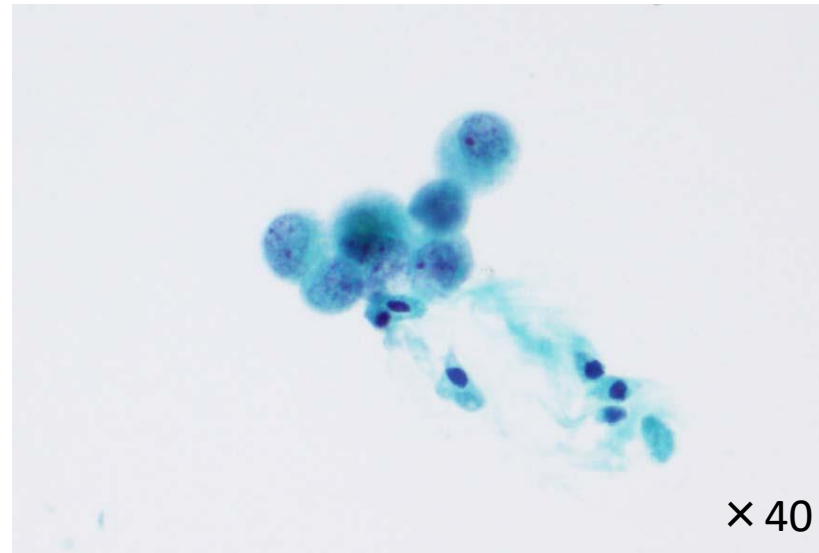
反応性尿路上皮(LBC)

通常の尿路上皮細胞のLBC(Cell prep)処理による細胞所見

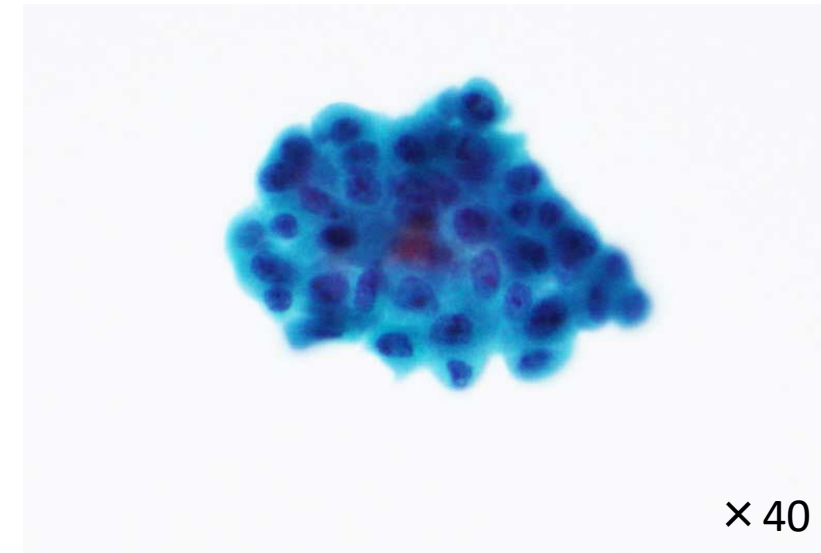
尿管結石



細菌性膀胱炎



糖尿病性腎症



- ・ 細胞の膨化傾向により、細胞境界が不明瞭になりやすい
- ・ 集塊の小型化・細分化
- ・ 壊死・炎症所見の減弱(あるいは塊状に出現)

【鑑別】

LBC標本 (Cell prep) の各異型細胞の細胞・染色所見の違い

尿路上皮癌

- ・ **核異型**が強調される傾向にある
- ・ 細胞質が明瞭で、立体形成の所見が弱い
- ・ 染色性が強い(濃い)

腺癌・腺上皮への分化(成分)

- ・ **核内所見**が強調される(核小体等)
- ・ 細胞質が非薄で細胞辺縁が不明瞭(立体形成がやや強調される)
- ・ 染色性が弱い(薄い)

出現する異型細胞の多様性を確認
(腺上皮・扁平上皮あるいは小細胞癌などの他成分の確認)



複数成分の混在の有無を観察する

【総括】

尿路上皮癌以外の成分について判定する場合

特殊型の可能性や**LBC処理での細胞変化**を考慮する

- 出現する異型細胞の性質を把握する
 - 他成分の混在やその特徴を見落とさない
- 従来標本とLBC標本での特徴所見を比較する
 - LBC処理での細胞変化について評価精度を向上させる
- 臨床情報や採取法を考慮して検体処理を行い、総合的に判定する

典型例に捉われず、LBCの特徴を十分に把握してルーチン検査に活かす